

ボランティア活動報告書(1 号)

記入日	2014年03月17日
区分	一般隊員
氏名	石川 雄介 (25-3)
派遣国	ナミビア
職種・指導科目	土木
派遣期間	2014年01月14日 ~ 2016年01月13日

報告書 1 号要約

赴任して1ヵ月が過ぎ、職場に慣れることと、どのような仕事を同僚はしているかを理解することを意識して過ごしました。

作業員と一緒に現場に行き、実際の作業を見る中で改善点を考え、カウンターパートと一緒に町に出て、町の抱える問題や役場の抱える問題について実際に見ながら話し、状況を調べていきました。

町の抱える問題は、人口増加により町は外に外にと大きくなっていくが、インフラ整備が追いついておらず、電気・水道のない地域が多いこと。また、既存のインフラ設備も老朽化しており、水道管の破損・下水ポンプ場の故障・道路上のポットホールなど、壊れた所を補修しても、また別の所が壊れてしまうこと。職のない人が多く、特に郊外の地域ではゴミと無職の人が溢れていること。雨季には突然豪雨になることが多く、排水設備が整っていないことが原因となり、道路が水流に削られ、道が通れなくなる。舗装道路が少ないため、グラベル舗装の道路では、凸凹が多く、また降雨後には道路が冠水すること。役場の予算が少ないことから、新規の工事・補修工事を問わず、十分な資金が使えないので、その場しのぎの工事をするようになってしまうこと。などが挙げられます。

これらの問題をなんとかしたいという思いは強く、役場の人のボランティアに期待する気持ちは大きいのですが、具体的にこれをやってほしいという要求やこうしたいというアイデアなどは特に今のところは無いです。

まず、町の状況を実際に見て確かめ、カウンターパートと相談しながら今後の活動方針と問題解決の方法を考えていきたいと思っています。

土木の技術自体は、役場の作業員や民間の建設会社を見ている限りでは特に問題はなく、日本の作業員とほぼ変わらないレベルであると感じます。

工事費用の見積もりなどは、建設コンサル任せの状況のため、コスト削減のために自分たちで

できるようにしていきたいと思っています。

1. 活動地域及び配属先の概要

活動地域：ルンドゥはナミビア北部の東カバンゴ州の州都である。カバンゴ州は2013年に東カバンゴ州と西カバンゴ州に別れた。町の北を流れるオカバンゴリバーにより、アンゴラと国境を接している。首都のウィントフックまでは700kmほどであり、車で約8時間である。

標高は約1,000mであり、高低差はほぼない。ナミビアの国内では降水量の多い地域であり、平均550mmの雨が1年に降る。湿度もウィントフックと比べて高い。

ルンドウの人口は約8万人であり、2001年当時では4万人ほどだったので、この10年でほぼ2倍になっている。この人口の増加が数々の問題を引き起こしている。

産業としては、農業がメインであり、その他は漁業、木工、観光である。

市内から5kmほどの場所にルンドウ空港があり、ウイントフック行きの飛行機が週3便出ている。

ルンドウ町役場は、大きく分けて3つの部に分かれており、総務部門 財務部門 技術部門がある。CEOが頂点にあり、工事予算などもすべてCEOの承認が必要である。

ルクセンブルクの援助を数年前まで受け入れており、インフラ整備を進めていた。現在、ルクセンブルクの援助団体は撤退している。

2. ボランティアが所属する部局の概要

ルンドウ町役場の技術部門には、下記の部署があります。

- ・土木&機械部：道路維持補修、役場の機械の整備、電気保守、道路建設（25人）
- ・水道&公衆衛生部：水道新設、既存水道補修、下水道新設、既存下水道補修（25人）
- ・都市計画部：都市計画、土地管理、建築（7人）

技術部門の課題としては、下記のことが挙げられる。

- ・豪雨災害対策

雨季には突発的な豪雨が多々あり、その度に道路が浸食され、通行不能になる場所も出るので、適切な排水設備を設置することが必要。排水を考えずに作られた道路が多くある。

- ・道路の維持補修

舗装道路のポットホールの補修、グラベル道路の不陸整正が必要。

- ・水道の新設・補修

独立以前からの設備のため、水道管の破損による断水が頻発。設備の更新が必要。また、街が外に外にと大きくなっているが、新しいエリアに水道を供給することが必要。

- ・下水道の新設・補修

独立以前からの設備のため、下水道をくみ上げるポンプの故障が頻発。設備の更新が必要。また、街が外に外にと大きくなっているが、新しいエリアに下水道を供給することが必要。

同僚は、土木部長（27歳）大学卒。設計・施工・監理はすべてコンサルに外注している。

3. 配属先のニーズ

- ・工事コストの適正な見積もり
- ・Rundu公園の設計・施工監理
- ・豪雨災害対策に対する排水計画策定と施工
- ・日常維持補修業務の効率化
- ・土木技術者の視点からの町の課題発見と解決
- ・同僚の日常業務の補助
- ・コスト管理と品質管理に関するアドバイス

4. 活動計画準備状況

現地調査：同僚・作業員とともに街をまわり、課題を発見、整理する。（雨水排水、上下水道、道路勾配、道路幅員、処理場、ポンプ場等）。また、町の形、ゴミ処理・排水処理システムについてもヒアリング・図面等により調べる。

調べたことを整理し、まとめる。それを同僚と相談しながら今後の工事計画を策定する。工事をするには、CEOの承認が必要なため、承認を得るための資料・書類を作成する。

その他として、外務省の「草の根人間の安全保障無償資金協力」に応募をし、町のインフラの改善を加速させる。現在、同僚と相談中。

5. 受入国の印象

ナミビア共和国は、ほぼ南アフリカ共和国と同じ中進国であり、首都においては日本とほぼ変わらない種類の物資を購入することもできる。物価は、日本とほぼ同等であると感じる。裕福な黒人・白人層にとっては、気候も穏やかで、安全なので住みやすいと思われるが、貧しい黒人層にとっては、物の値段が高すぎるのではないかと感じる。また、ガソリンの値段も日本とほぼ同じであり、こちらの人の収入から考えると非常に高いと思う。観光をする場所が国内各地にあり、どれも素晴らしいものなので、欧州からの観光客を町で頻繁に見かける。道路・水道・下水道・電気などのインフラ関係は町の中心部においては整備されている。しかし、老朽化は進んでおり、設備の更新が早急に必要。私の家でも頻繁に断水する。郊外ではインフラ設備のない場所で生活している人も多く、整備が必要。噂に聞いていた通り、失業者は多い。私の町では、6割くらいは仕事がない。また、裕福な黒人・白人層と貧しい黒人層の差がとても激しい。気候は穏やかであり、とても過ごしやすい。雨季は夕立が多い。私の町は川の近くのため、蚊が多いと感じる。人々は穏やかであり、落ち着いた感覚を持っている。

JICAへの要望・提案

- ・各国の有償・無償資金協力のプログラムを教えて欲しい。
(外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」のような)

町としてはインフラを整備して人々の生活を改善させていきたいが、資金不足と技術者不足のために、何もできない地域が多数ある。ボランティアが赴任して、課題発見・解決ができるチャンスなので、この機会に資金を確保して必要な工事を行いたい。

先進国には、援助のためのプログラムが多数あり、それに採用されればインフラ改善のスピードを加速させることができるので、私たちはそれに応募していきたい。

しかし、どの国がどのようなプログラムを行っているかを調べるのに時間が必要となってしまうため、もし、JICAでそのような情報を一覧として持っているならば教えて頂きたい。

別送書類

- ・ 指定添付資料(様式1~4)

ボランティアへのコメント(在外事務所)

記入者：